

ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」のハゼ科魚類・

コウノトリ文化館の紹介

北垣和也・泉山和歌子・上田尚志

(豊岡市立コウノトリ文化館・NPO 法人コウノトリ市民研究所)

はじめに

NPO 法人コウノトリ市民研究所(以下、当研究所)は、兵庫県但馬地域の生物調査や環境教育等の活動を行う団体です。本発表では、生物調査の一例として円山川下流域に生息するハゼ類の調査結果の報告、また、当法人が指定管理者制度により運営している豊岡市立コウノトリ文化館(以下、当館)について紹介します。

調査場所と方法

兵庫県北部を流れる円山川は、朝来市生野町に源流を発し、豊岡市で日本海に流れ出ます。下流域の河床勾配は 1/9000 と低く、河口から 16km 上流まで汽水域が続きます。下流域と周辺の水田はラムサール条約に登録されており、コウノトリをはじめ様々な動植物が生息しています。調査を行った場所は、1. 田結川・田結湿地、2. 気比川、3. ハチゴロウの戸島湿地、4. 円山川下流部の 4 か所です(図 1)。

当研究所の研究員による調査のほか、兵庫県但馬県民局による事業「高校生ラムサール湿地調査」において、地元の高中生との共同調査も行いました。方法は、タモ網、投網、小型定置網を使用して採集をしました。調査は 2013 年からほぼ毎年行ってきました。



ラムサールエリア区域図【提供：豊岡市】

図 1 調査場所

結果と考察

合計 24 種のハゼ科魚類が確認できました。生活史区分でみると、一生淡水で過ごす純淡水魚が 2 種、海と川を行き来する通し回遊魚が 8 種、汽水魚や本来は海に生息している周縁性淡水魚が 14 種でした(表 1)。

場所によって種組成に違いがありました。田結川・田結湿地、気比川は通し回遊魚が多く、円山川下流部やハチゴロウの戸島湿地では、周縁性淡水魚が多い傾向がありました。この違いは、田結川、気比川は勾配が急で汽水域が短く、円山川は勾配が低く汽水域が長いことによると考えられます。また、同じ調査地内に多様な環境が存在し、シロウオやミミズハゼといった礫底の環境を好む種と、ヒメハゼやクボハゼなどの干潟環境を好む種が同じ調査地で確認できました。これらの結果から、円山川下流域は多様な種が生息する貴重な場所であると再確認できました。

表1 採集したハゼ科魚類一覧

生活史区分	種名	学名	田結川・田結湿地	気比川	戸島湿地	円山川下流部
純淡水魚	シマヒレヨシノボリ	<i>Rhinogobius tyoni</i>		●	●	
	ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius castaneus</i>		●		
		種数	0	1	1	0
通し回遊魚	シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>	●	●		●
	スマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	●	●		
	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	●			
	ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius similis</i>	●	●	●	
	トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp.	●	●		
	スミウキゴリ	<i>Gymnogobius petschiliensis</i>	●	●	●	
	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	●	●		
	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	●	●	●	●
		種数	6	6	3	2
周縁性淡水魚	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	●	●		●
	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	●	●	●	●
	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	●		●	●
	アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>			●	●
	アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>			●	●
	シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>			●	●
	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	●		●	●
	ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>	●	●		●
	ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>			●	●
	ツマグロスジハゼ	<i>Acentrogobius</i> sp.2				●
	スジハゼ	<i>Acentrogobius virgatus</i>				●
	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>				●
	ニクハゼ	<i>Gymnogobius heptacanthus</i>	●	●		●
	クボハゼ	<i>Gymnogobius scrobiculatus</i>				●
		種数	6	4	6	14
種数合計			12	11	10	16

豊岡市立コウノトリ文化館の紹介

当館は2000年に開館し、2015年より当研究所が指定管理者として運営しています。理念として以下の3つを掲げています。

- ① 人と自然が共生できる暮らし方を考え、実践し、提示していきます
- ② コウノトリ野生復帰事業を支援し、普及啓発します
- ③ コウノトリを育ててきた豊岡盆地の特徴的な自然、文化などを調べ、守ります



写真1 豊岡市立コウノトリ文化館



写真2 コウノトリ ※2005年豊岡市で野生復帰

1階の多目的ホールと観察デッキでは、飼育コウノトリを見ながら、解説を聞くことができます。野生のコウノトリが飛来することもあります。展示実習室では、但馬地域の魚類の生態展示や、昆虫類の標本の展示等を行っています。2階の収蔵庫では、鳥類と哺乳類の剥製を展示しています。他にも、館内外の様々なエリアで、但馬地域の生物や文化、芸術についての展示を行なっています。

また、毎週日曜日を中心に、多くのイベントも開催しています（年間全30種類以上）。地域住民はもちろん、他市町村からの参加者も多く、環境教育や交流の場となっています。



写真3 田んぼの学校



写真4 野鳥観察会



写真5 ホワイトストークコンサート